



# 新年に寄せて

病院長 長倉 和彦



新年あけましておめでとうございます。昨年も、拡大した新型コロナウイルス感染症に明け暮れた1年でした。秋になって急激に感染者が減少し、医療関係者として少し安堵していますが、皆さんもまずはホッとしているかと思います。

一昨年開催予定であった東京オリンピックを1年延期し、コロナ感染を克服した証として開催するという政府の目論見は残念ながら裏切られてしまいました。最も厳しい第五波のパンデミックの最中にオリンピックが開催されました。開催の是非について多方面から議論がありましたが、諸般の事情があったとはいえ、世界で最も大規模な祭典が開催される日本中が、ひっそりと息を潜めている中で行われました。テレビでは華々しく活躍する選手たちの姿が映し出されていましたが、会場に行って熱気を感じることもなく、あるいはボランティアとしての参加もなく、まるで世界のどこかでの出来事のようなようでした。そんな中でも、多くの日本選手のめざましい活躍は、一筋の光でした。それと、厳しい規制にもかかわらず、日本まで来て参加してくれた選手たちも素晴らしい笑顔を見せてくれました。参加選手、それを歓迎し、お世話した人々には感謝したいと思います。きっと、選手たちはそれぞれ素

晴らしい思い出も持ち帰ってくれたものと思います。日本選手の活躍も見事でした。はじめて開催



された種目も多くあり、毎日のように日本選手のメダル獲得が報じられました。現場にいて一緒に味わえたらどんなに喜びを分かち合えたのではと思うと大変残念でした。唐突に始まり、あっという間に終わってしまった。その前触れも余韻もない、異常な感覚を伴うオリンピック開催でした。

日本中の皆様にとって辛い1年となりましたが、コロナで鬱屈した生活を強制された中で、明るい話題を提供してくれたのは大谷翔

平選手でした。素直で優しい人柄と困難に立ち向かう姿は、日本人のみならず、世界中の人々を虜にしたと思います。活躍する姿が報道されると、ひと時ではありますが、コロナ渦の最中であることを忘れさせてくれました。今年もきっと明るい話題を提供してくれるものと期待しています。一つの競技に全霊を尽くして挑むスポーツマンの姿は、どのような逆境であっても、世界を明るく照らすものだと感じました。



オリンピックの開催時には1日25,000人を越えていた日本でのコロナ感染者は、この原稿を書いている12月現在、1日100人前後まで減少しています。一方諸外国ではまだまだ感染が拡大しており、日本の8月頃のような、最大規模の蔓延状態となっている国も多くあるのが実状です。日本で感染者が極端に減少していること理由は、専門家でもはっきりと説明できないようですが、人に迷惑をかけないよう心がける日本人の行動規範が収束への大きな力になったことは間違いありません。新たな変異株の出現もあり、まだまだ不安定な時期が続くと考えられます。冬場は本来呼吸器の伝染性疾患の蔓延しやすい時期でもありますので、皆様にもこれまでどおりしっかりと予防策を講じていただくようお願いいたします。

当院は地域の皆様にとって頼れる病院であることを使命としています。今回のような重度の感染症に対しては、施設、スタッフとも入院治療ができるほどは充実していませんが、今後は、感染対策を向上させ、皆様の期待に応えられる病院を目指します。

